

苓北医師会病院が 担う役割について

令和5年11月 天草郡市医師会立苓北医師会病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

＜病院理念＞

地域に根差した良質な医療・福祉・予防医療を提供し、
地域住民の健康を守り、地域活性化の一助となる。

＜基本方針＞

1. 患者権利の尊重
2. 安心・安全な医療の提供
3. 地域医療への貢献
4. 予防医療の推進
5. 地域総合リハビリテーションの充実

＜届出入院基本料・平均在院日数等＞

- 許可病床数 40床（回復期）うち新型コロナ受入病床3床
- 地域一般入院料 1 15床（21.3日）
 - 地域包括ケア入院医療管理料 2 25床（29.7日）

1 現状と課題

<診療科>

内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・
眼科・小児科・婦人科（休診中）

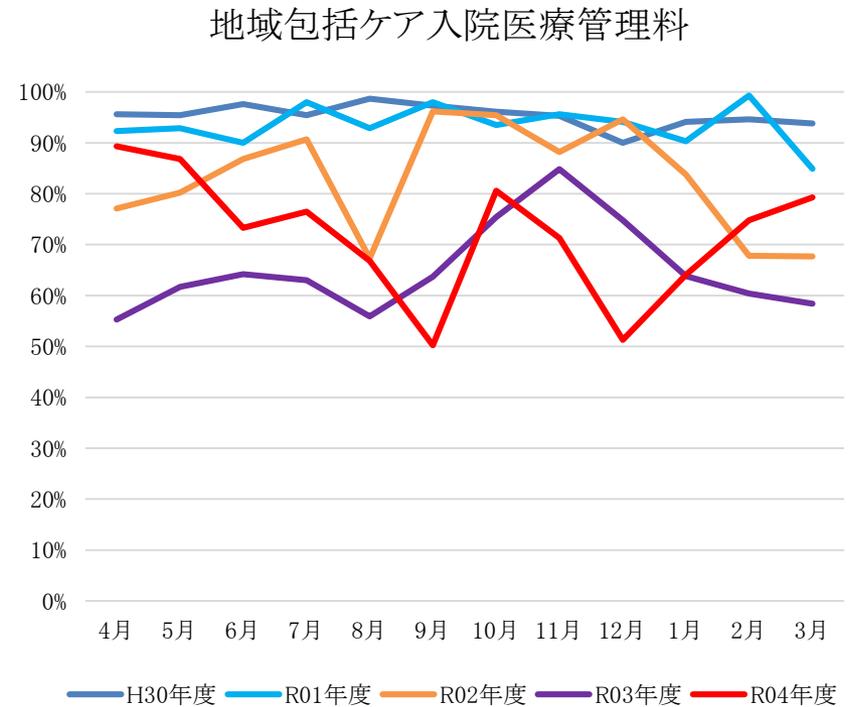
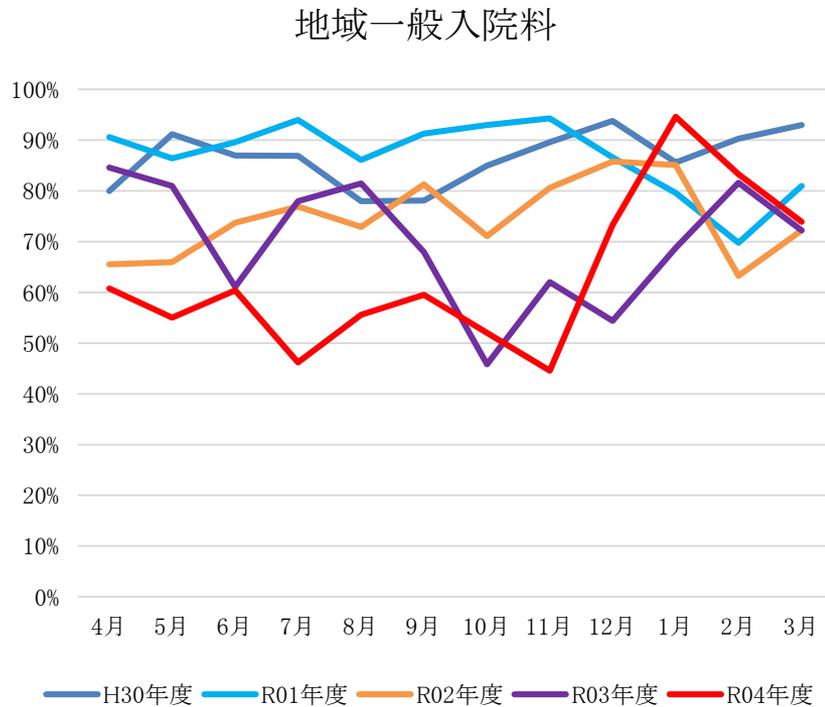
<職員数>

医師	4.6	薬剤師	1.0
看護師	19.1	准看護師	10.6
介護福祉士	1.0	看護補助者	6.3
介護支援専門員	1.0	診療放射線技師	2.0
臨床検査技師	1.5	理学療法士	3.0
管理栄養士	1.0	調理師(員)	5.0
事務	10.5	社会福祉士	1.0
施設管理/運行	4.0	助手(薬局/リハビリ)	2.5
平均年齢	50歳	合計	74.1

常勤医師は3名、ほとんどの職種で高齢化がすすんでいる。

1 現状と課題

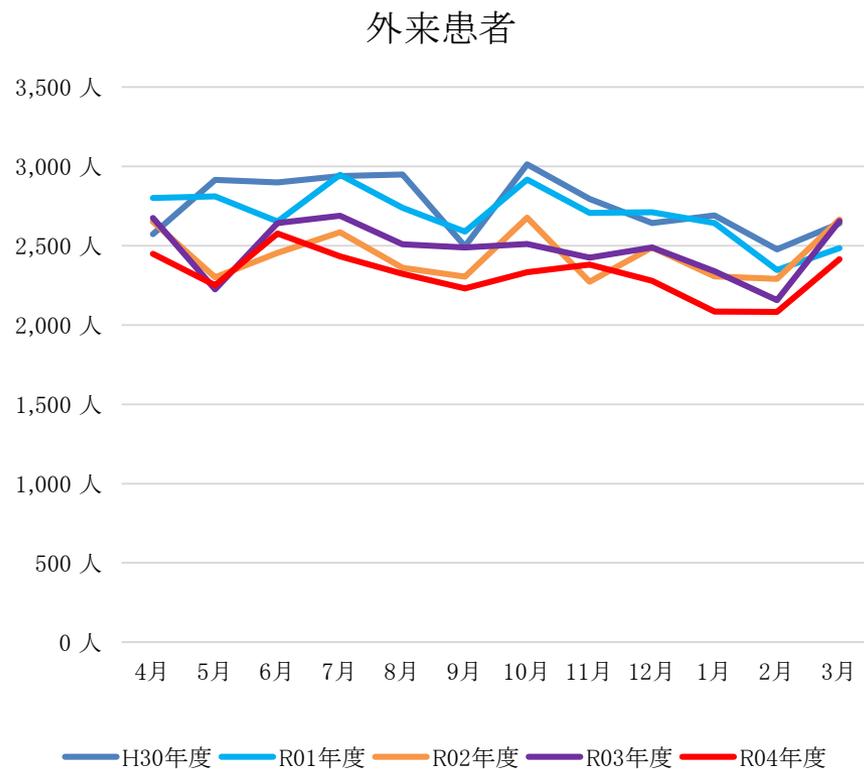
<診療実績> 病床利用率（過去5年間）



コロナ禍で減少した入院患者は、徐々に増加している。

1 現状と課題

<診療実績> 外来患者数（過去5年間）

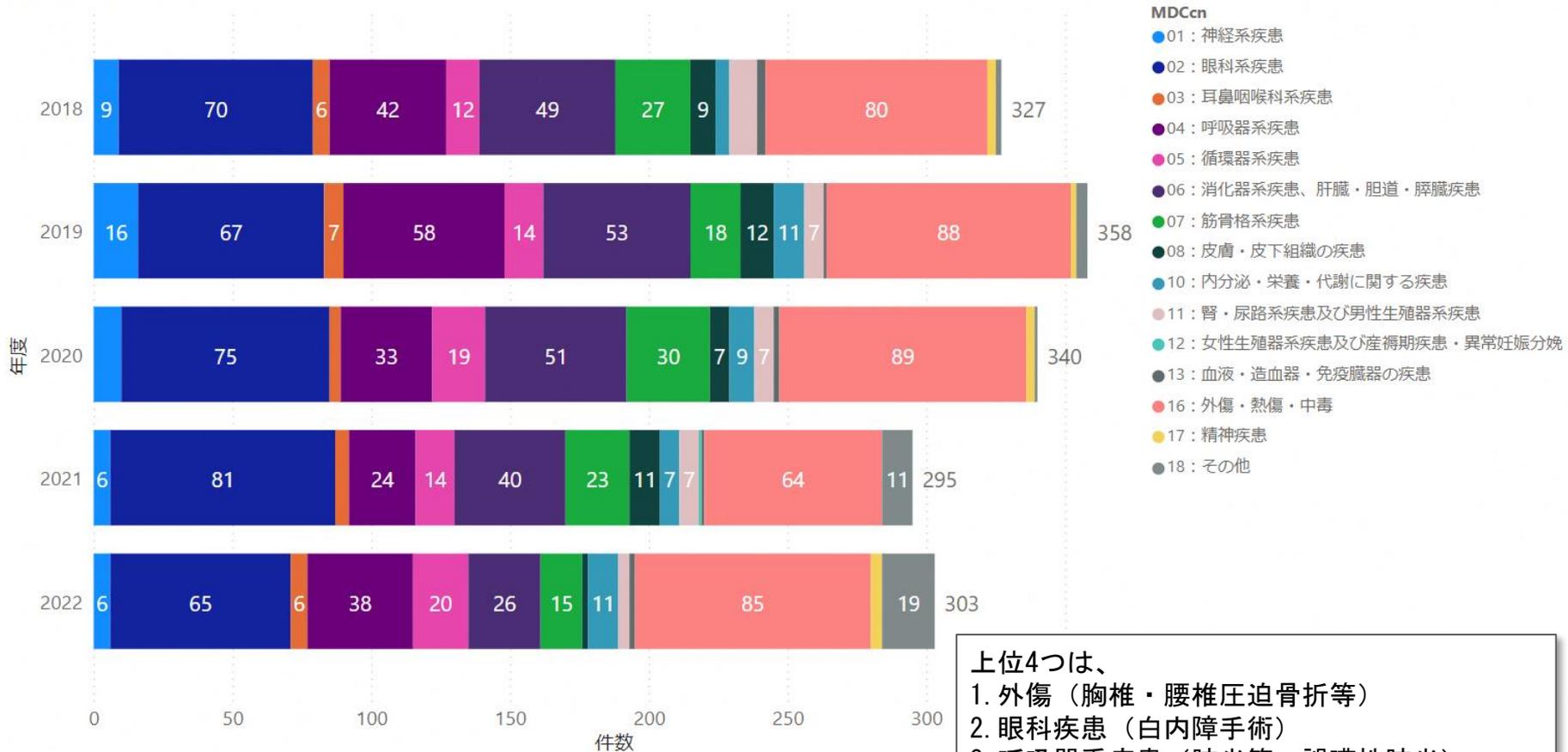


外来患者数は、徐々に減少している。

1 現状と課題

<診療実績> 主要診断群分類別退院患者数（過去5年間）

MDC別退院患者数



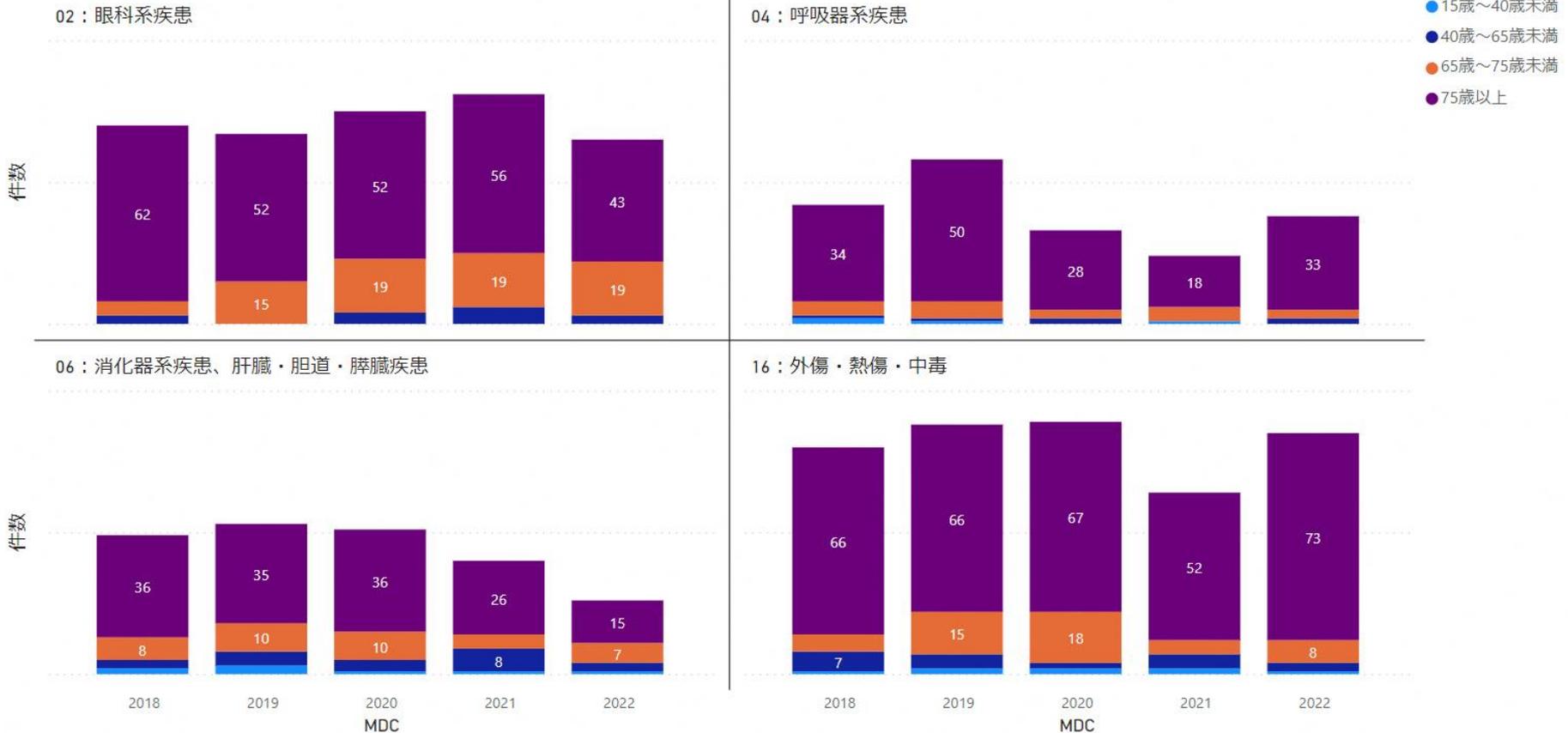
- MDCcn
- 01: 神経系疾患
 - 02: 眼科系疾患
 - 03: 耳鼻咽喉科系疾患
 - 04: 呼吸器系疾患
 - 05: 循環器系疾患
 - 06: 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患
 - 07: 筋骨格系疾患
 - 08: 皮膚・皮下組織の疾患
 - 10: 内分泌・栄養・代謝に関する疾患
 - 11: 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患
 - 12: 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
 - 13: 血液・造血器・免疫臓器の疾患
 - 16: 外傷・熱傷・中毒
 - 17: 精神疾患
 - 18: その他

上位4つは、
 1. 外傷（胸椎・腰椎圧迫骨折等）
 2. 眼科疾患（白内障手術）
 3. 呼吸器系疾患（肺炎等、誤嚥性肺炎）
 4. 消化器系疾患

1 現状と課題

＜診療実績＞ 主要診断群分類別年代別退院患者数（患者数上位4分類, 過去5年間）

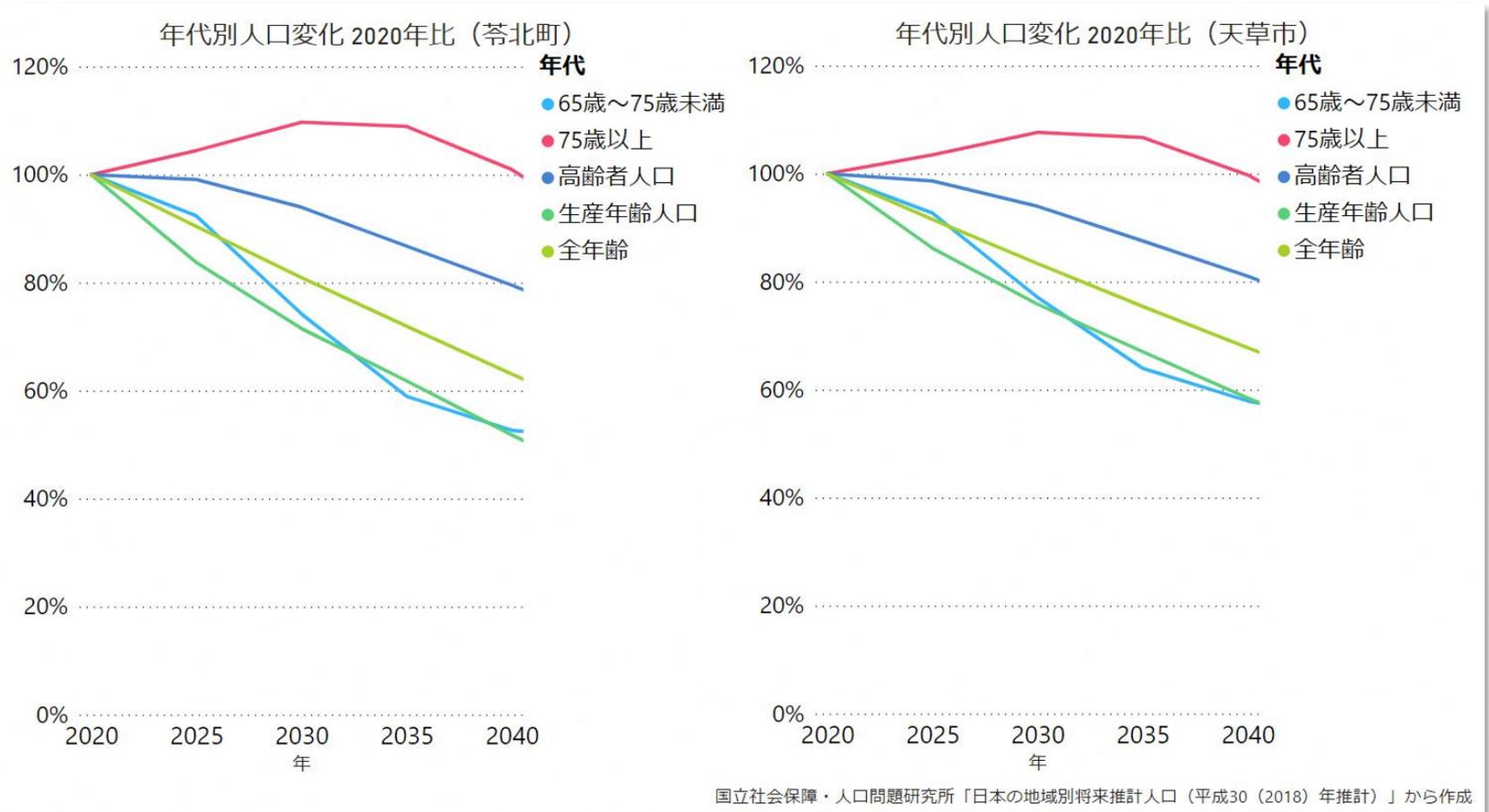
MDC別退院患者数



高齢者、特に75歳以上の患者が大半を占める。

1 現状と課題

<地域人口変化>

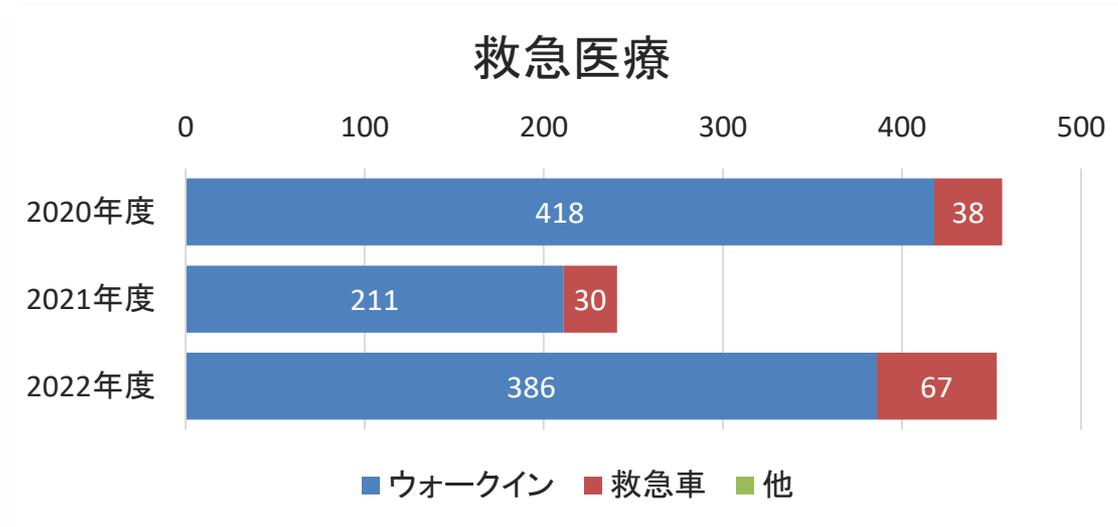


高齢者は減少するが、75歳以上は2035年頃までは現状より多い。
生産年齢人口の減少が深刻、職員の確保が難しくなる恐れ。

1 現状と課題

<5疾病・5事業及び在宅医療>

二次救急医療、小児医療。在宅療養支援病院3



小児医療は、週1回（月曜午後）の外来診療の

<他機関との連携>

手術は、眼科領域のみ提供。その他の手術、緊急対応が必要な患者は、天草地域医療センター等へ紹介。

慢性期の患者は、天草慈恵病院等や近隣介護施設へ紹介。

1 現状と課題

<地域の在宅医療>

天草医療圏におけるSCR（レセプト出現率）、全国平均を100とする。

在宅医療提供状況は、全国と比較して低

【在宅医療】			
行為名称	SCR (H30)	SCR (R01)	SCR (R02)
往診	0	51.7	50.8
在宅患者訪問診療料	55	51.9	50.3
在宅時医学総合管理料	33	49.2	33.1
在宅時医学総合管理料（在支診等）	59	43	44.8
在宅時医学総合管理料（在支診等以外）	70	83.7	80.9
施設入居時等医学総合管理料	37	38.6	39.5
施設入居時等医学総合管理料（在支診等）	82	69.3	77.1
施設入居時等医学総合管理料（在支診等以外）	34	46.9	40.9
在宅患者訪問看護・指導料	79	75	77.9
在宅患者訪問看護・指導料（保健師、助産師、看護師）	71	81.4	80.9
在宅患者訪問看護・指導料（准看護師）	188	183.7	207.4
訪問看護指示料	37	38.3	39.1

1 現状と課題

＜地域の介護保険事業状況＞

苓北町、天草市の介護版SCR（SLTCSR）、全国平均を100とする。

訪問リハ、通所リハ、介護保険施設以外の事業状況は、全国と比べれば手薄。

苓北町

介護保険サービス	SLTCSR (H30)	SLTCSR (R01)	SLTCSR (R02)
訪問介護	50.2	41.7	41.5
訪問看護	74.8	80.7	68.5
訪問リハ	159.3	127.9	98.4
通所介護	32.9	34.1	38.9
通所リハ	314.9	297.6	325.5
介護老人福祉施設	105.5	97.5	93.1
介護老人保健施設施設	201.5	212.9	244.1
介護療養型医療施設	0	0	0
介護医療院	2525	1656.3	843.8

天草市

介護保険サービス	SLTCSR (H30)	SLTCSR (R01)	SLTCSR (R02)
訪問介護	67.3	67.2	68
訪問看護	85.2	89.9	90.2
訪問リハ	35.9	38.5	35.1
通所介護	73.2	78.7	81.9
通所リハ	226.7	207.3	213.1
介護老人福祉施設	125.5	126.2	124.3
介護老人保健施設施設	139.3	143.6	143.1
介護療養型医療施設	312.1	275	118.2
介護医療院	302.4	367.5	400.9

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

<まとめ>

1. 常勤医師の確保。
2. 看護職員、介護職員等の中期的な確保。
3. 医師・看護職員のタスクシフトと業務効率化。
4. 在宅医療への取り組みが遅れている。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

- 当院の入院患者層である75歳以上の高齢者人口が、2035年頃まで増加することから、これまで通り、かかりつけ医としての機能と二次救急医療、回復期機能の継続を目指す。加えて、地域にとって手薄な在宅医療、訪問看護等を担い、在宅療養支援病院としての機能を充実させる。そのために、医師の確保に取り組む。看護職員については、確保をすすめるとともに、タスクシフトと業務効率化をすすめ、病床利用率の低下が続けば、病床の削減も行い、人員の配置換えを検討する。
- 生活習慣病予防、消化器内視鏡検査によるがん予防など予防医療の推進。
- 新型コロナウイルス感染症に対して整備した、最大3床受け入れ可能な体制を、必要に応じて新興感染症に対応できるように維持する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(平成34年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	0	0	0
急性期	0	0	0
回復期	40	40	40
慢性期	0	0	0
その他	0	0	0
合計	40	40	40

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

- 引き続き「回復期」として、後期高齢者の外傷（胸椎・腰椎の圧迫骨折等）、リハビリテーション、呼吸器疾患（肺炎、誤嚥性肺炎等）、消化器疾患への診療を継続する。
- 地域にとって希少な眼科診療と白内障手術等を継続する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (年 月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・外科・整形外科・ リハビリテーション科・ 眼科・小児科・婦人科	内科・外科・整形外科・ リハビリテーション科・ 眼科	2024年2月から整形外科医 が非常勤になる。 常勤医師の確保。
新設		総合診療科	常勤医師の確保
廃止		小児科・婦人科	小児の減少と他医療機関との 競合を避ける。 婦人科は、休診中。
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2023年9月時点)	2025年
①病床稼働率	73.3%	85.0%以上
②紹介率	—	—
③逆紹介率	—	—

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

- 地域連携室の人員を増やし、入退院調整機能の充実を図っている。さらに、公共交通機関の脆弱性等で通院困難な患者の送迎サービスを充実させる。
- 2023年2月から常勤医師が1名減になることから、常勤医師確保と並行して、平日宿直医の確保をすすめている。
- 労働人口減少により、医療機関だけでなく人員不足は地域全体の問題になっている。公共交通機関をはじめとした、様々なインフラが脆弱になってきており、地域包括ケアシステムを構築、継続していくには、住民の生活に、より関わっていく必要がある。病院理念にあるように、地域に根差した活動が一層求められている。

4 その他特記事項

【特記事項なし】